

資源評価調査委託事業
スルメイカ漁場一斉調査（要約）

清藤真樹

目 的

太平洋海域におけるイカ類資源の有効利用、イカ類漁業の操業の効率化と経営安定に寄与するため、スルメイカの漁況予報に必要な分布・回遊、成長・成熟および海洋環境などに関する資料を収集する。

材料と方法

6月と8月に本県東方の太平洋海域において、下記調査を行った。

1. 第1次調査

- (1) 期 間：平成25年5月30日から6月5日（試験船・開運丸）
- (2) 調査項目：35地点についてseabird社製CTD・911plusによる表層から最深500mまでの水温と塩分を測定し、平年値と比較すると共に、14地点において3台の2連式自動イカ釣り機により釣獲されたイカ類について種毎に全尾数を計数し、そのうち最大100個体について外套長を測定した。

2. 第2次調査

- (1) 期 間：平成25年8月27日から8月30日（試験船・開運丸）
- (2) 調査項目：32地点についてseabird社製CTD・911plusによる表層から最深500mまでの水温と塩分を測定し、平年値と比較すると共に、8地点において3台の2連式自動イカ釣り機により釣獲されたイカ類について種毎に全尾数を計数し、そのうち最大100個体について外套長を測定した。

なお、本調査は、北海道沖の太平洋沿岸のイカ類の漁海況予報を目的に、北海道区水産研究所と北海道と東北にある4道県が分担して実施した。

結 果

1. 第1次調査

海洋観測結果について、平年値と比較すると津軽暖流域の最高水温は0m層と50m層はかなり低め、100m層でやや低め、津軽暖流の水塊深度はやや浅め、尻屋崎東方への張り出しはやや東偏となっていた。14地点すべてでイカ類の漁獲はなかった。

2. 第2次調査

海洋観測結果は、津軽暖流域の最高水温は0m層でかなり高め、50m層ははなはだ高め、100m層はかなり高めとなっていた。津軽暖流の水塊深度はやや深め、尻屋崎東方への張り出しは平年並みであった。

漁獲調査の結果は、8地点中7地点でイカ類の漁獲があった。8地点中3地点でスルメイカ、5地点でアカイカが漁獲された。スルメイカの有漁率（有漁地点数/全操業地点）は37.5%、アカイカの有漁率は62.5%であった。漁獲されたスルメイカの外套長は16cmから26cmで、有漁地点の漁獲尾数は1尾から10尾、1台（2ライン）・1時間当たりのCPUEは0.08から0.86尾/台/時であった。また、漁獲されたアカイカの外套長は16cmから30cmで、有漁地点の漁獲尾数は9尾から121尾、1台（2ライン）・1時間当たりのCPUEは0.89から6.72尾/台/時であった。

発表誌：平成25年度イカ類漁場開発調査資料第39号及び外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する基礎資料集 平成26年5月